

第118回市町村職員を対象とするセミナー

岩手県釜石市における在宅医療・介護連携の推進に向けた医師会と市区町村との協力について②

在宅医療連携拠点チームかまいしの取組み

連携の土壌づくりとタネまき、その成果と波及効果



平成28年3月18日

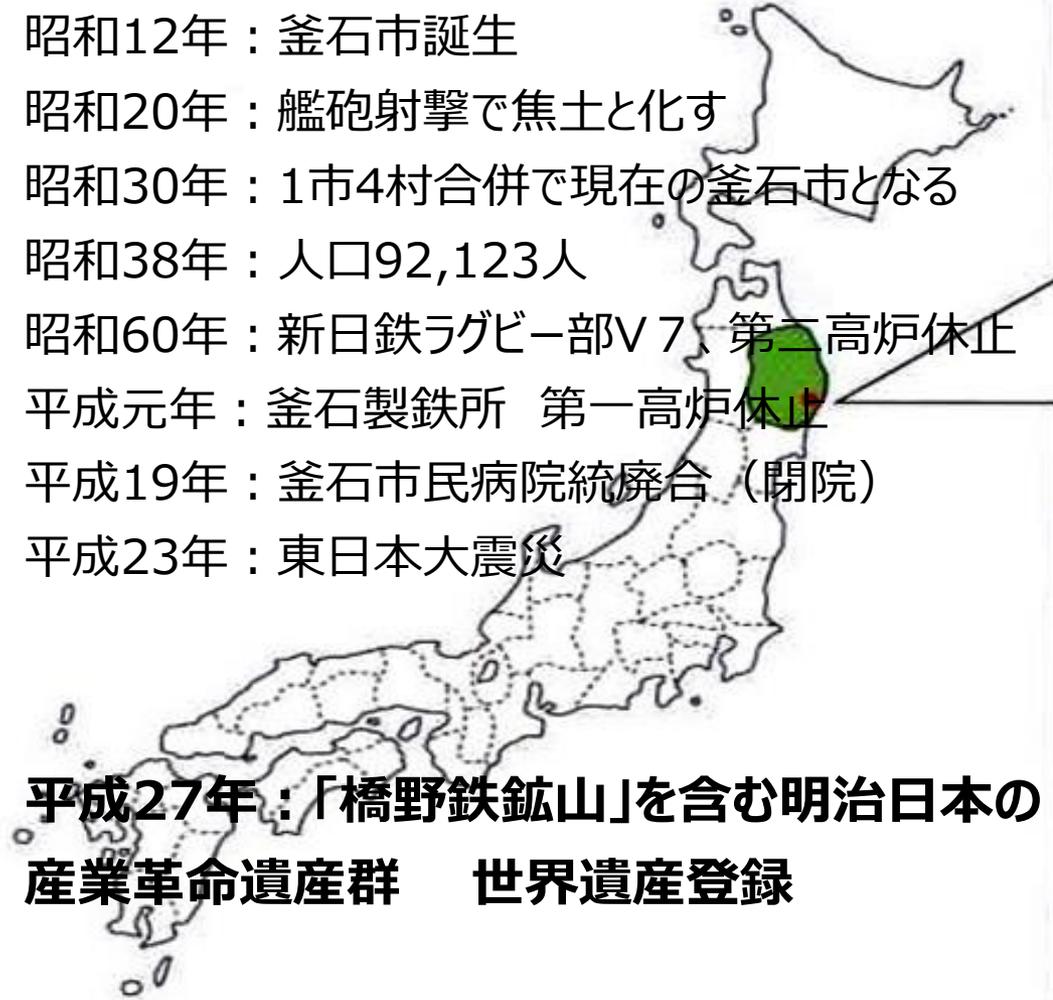
釜石市保健福祉部健康推進課

地域医療連携推進室

在宅医療連携拠点チームかまいし
連携コーディネーター 小田島史恵

釜石市

- 三陸大津波（M29、S8）、
チリ地震津波（S35）、十勝沖地震津波（S43）
- 昭和12年：釜石市誕生
- 昭和20年：艦砲射撃で焦土と化す
- 昭和30年：1市4村合併で現在の釜石市となる
- 昭和38年：人口92,123人
- 昭和60年：新日鉄ラグビー部V7、第二高炉休止
- 平成元年：釜石製鉄所 第一高炉休止
- 平成19年：釜石市民病院統廃合（閉院）
- 平成23年：東日本大震災
- **平成27年：「橋野鉄鉱山」を含む明治日本の産業革命遺産群 世界遺産登録**



三陸復興国立公園のほぼ
中央に位置する、鉄と魚の
まち

岩手県

釜石市

2019年ラグビー
ワールドカップ開催地!!

岩手県の二次医療圏



◆釜石市
面積 441.32Km²
人口 36,096人
高齢化率 35.8%

◆大槌町
面積 200.59Km²
人口 12,455人
高齢化率 33.8%
(H27.6月末現在)

釜石医療圏

釜石市・大槌町
人口 48,551人
高齢化率 35.3%

医療資源・介護資源（釜石保健医療圏）

➤病院	6	※再建中の病院1も含む
➤医科診療所	19	※内、在宅療養支援診療所 3
➤歯科診療所	19	
➤保険調剤薬局	20	
➤地域包括支援センター	2	（釜石市1、大槌町1）
➤居宅介護支援事業所	17	
➤訪問介護事業所	12	
➤訪問看護ステーション	3	
➤通所介護事業所	16	
➤特別養護老人ホーム	5	
➤グループホーム	10	

平成27年度実施
在宅医療・介護実態調査結果より

- 在宅看取り実施診療所 11
- 在宅医療実施診療所 9
- 訪問指導実施歯科診療所 12
- 訪問指導実施保険薬局 11

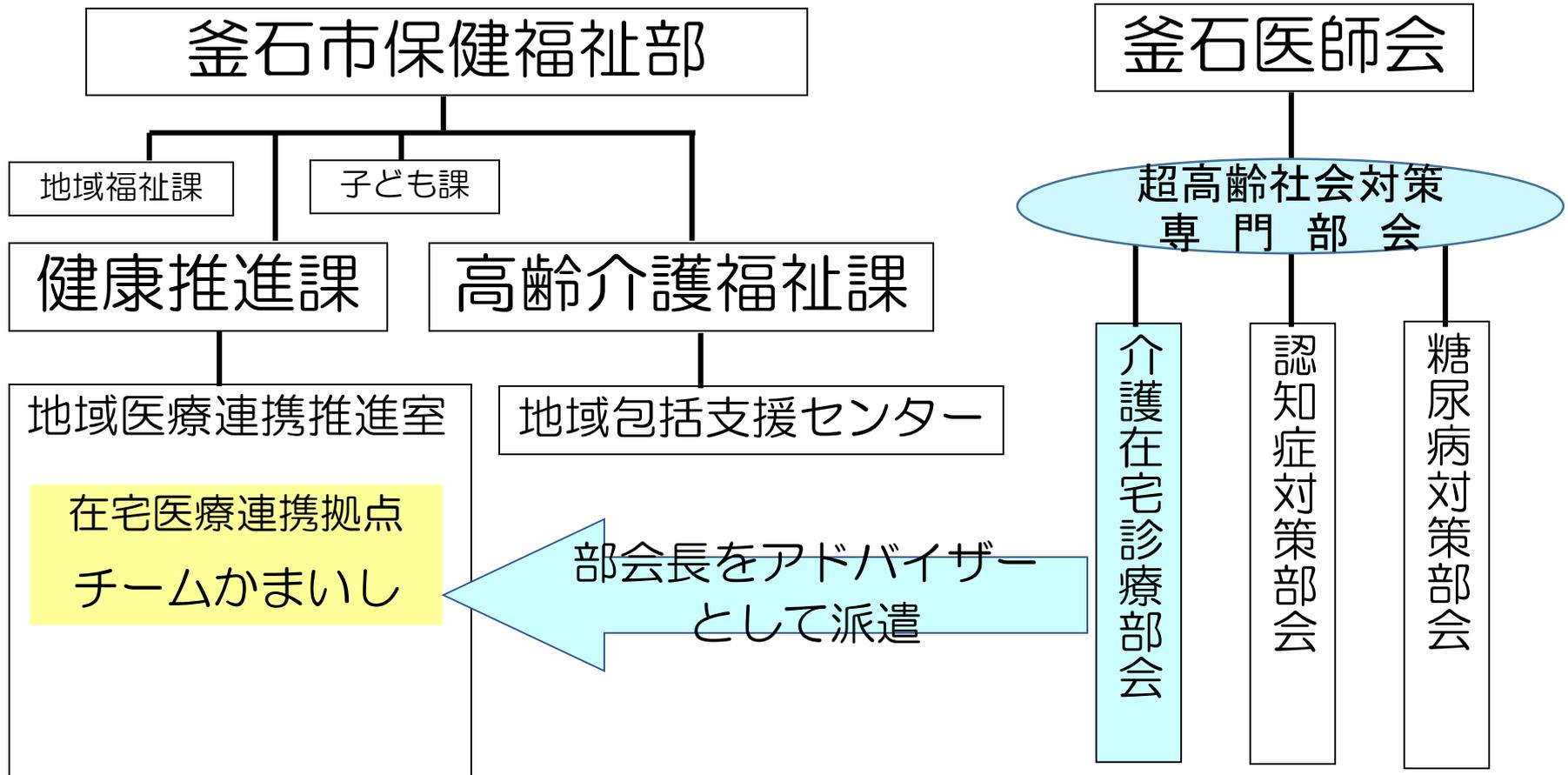
平成27年11月現在

在宅医療連携拠点チームかまいし

- ◆平成24年7月1日 **釜石医師会との連携により**
厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」の採択を契機に
「在宅医療連携拠点チームかまいし」を設置
- 地域医療・介護連携の専門部署として、市保健福祉部内地域医療連携部局に設置
- 医師会派遣のアドバイザー(医師)配置
- 連携コーディネーター(事務職)配置



チームかまいし関連組織図



財 源

平成24年度

厚生労働省委託モデル事業

在宅医療連携拠点事業

平成25年度～平成27年度

岩手県補助事業（地域医療再生基金）

在宅医療介護連携促進事業

在宅医療介護連携コーディネート事業

平成28年度～

地域支援事業(介護保険)

在宅医療・介護連携推進事業

求められるタスク

H24年度在宅医療連携拠点事業

- 地域の医療
- 関係者が一
- 研修の実施
- 24時間36
- 提供体制の支
- 在宅・介護
- 設置
- 効率的な情
- 地域住民の

平成30年度からは全ての市町村が実施する在宅医療・介護連携推進事業

チームかまいしの設置目的

～患者が希望すれば在宅医療を選択できるまちづくり～

在宅医療の普及啓発 と

在宅医療・介護に関する 多職種連携の推進

の把握
題の抽出と対応

介護の提供体制

共有支援
する相談支援

する関係市町村

事業取組みのための第一歩《準備編》

- 担当部署の決定

例：①介護保険担当課が担当する

②医療関係者と顔の見える関係が構築されている

部署が担当する。 釜石市の場合：健康推進課地域医療連携推進室

③地域包括ケア等を所管する部署を新設する

- 郡市医師会との連携

釜石市の場合：釜石医師会からアドバイザーの派遣を受ける

- 多職種の顔の見える会議開催

在宅医療連携拠点事業に係る世話人会の開催

※「在宅医療連携拠点事業推進協議会」の前身

釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会

◆平成27年度構成員

- 釜石医師会 5
- 各病院代表者 5
- 釜石歯科医師会 1
- 釜石薬剤師会 1
- 釜石広域介護支援専門員協議会 1
- 釜石リハビリテーション療法士会 1
- 釜石市保健福祉部 1

《オブザーバー》

岩手県保健福祉部長寿社会課
大槌町民生部
釜石保健所
釜石市包括ケア推進本部
釜石市地域包括支援センター
高齢介護福祉課
地域づくり推進課

チームかまいし的事業取組みのための第一歩《実践編》

連携の土壌づくりとタネまき

➤ア)医療・介護資源の把握

- ・医療・介護資源のリスト&マップ作成
- ・チームかまいしHPで公開
- ・google mapの活用 (フリー)

※一番の目的は、連携拠点が把握すること。

公開は二の次。顔の見える関係づくりの下準備

※経費は殆どかけてないのが自慢!

更新が頻繁なので印刷製本しても無駄になるので・・・



➤イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と解決策の検討

最も重要なタスク。これにより事業の方向性は左右される

➤専門職を対象とした意識啓発(研修、説明会等)

地域医療連携推進フォーラム

歯科医師会会員対象研修

薬剤師会理事会での説明

地域包括支援センター職員対象研修

連携コーディネーター育成研修 等の実施

- ウ) 切れ目のない在宅医療介護の提供体制の構築推進
- カ) 医療介護関係者の研修

在宅医療・介護関係多職種を対象とした意識啓発

平成25年度地域医療連携推進フォーラム

講演①：「治す医療から治し支える医療への転換」

国立長寿医療研究センター総長 大島伸一氏

講演②：「在宅医療連携拠点事業以降の在宅医療・介護の展望」

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻哲夫氏

シンポジウム：「釜石の復興を支える包括ケアの構築に向けて」

座長：県立釜石病院院長 遠藤秀彦氏

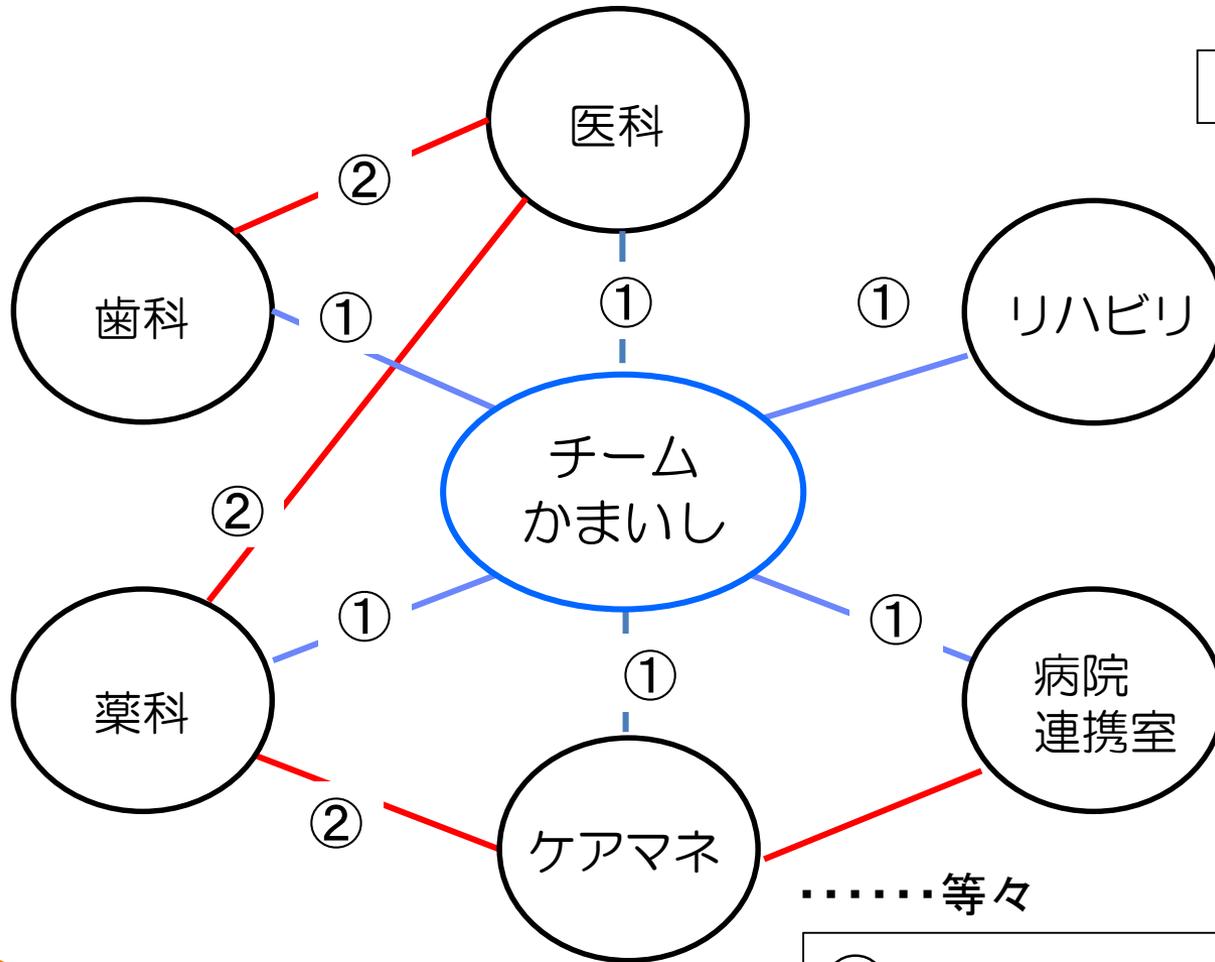


チームかまいし事業実施概要

ア) 地域の医療・介護の資源の把握	医療介護資源基本情報(資源リスト)及びマップの作成と周知 在宅医療・介護連携実態調査
イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	職能団体毎の打ち合わせ等 (一次連携) 在宅 階層別連携コーディネート 釜石 階層別連携コーディネート (二次連携)
ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	二 階層別連携コーディネート 協会等 (二 階層別連携コーディネート)
エ) 医療・介護関係者の情報共有支援	チームかまいしホームページ・ブログ開設、サイボウズlive運用、 地域医療情報ネットワーク「OKはまゆりネット」構築・運用支援
オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援	多職種向け連携に関する相談窓口設置 一般向け在宅医療に関する相談窓口設置
カ) 医療・介護関係者の研修	地域 階層別連携コーディネート 職能団体主催研修開催への支援、 協 階層別連携コーディネート 二次連 携)
キ) 地域住民への普及啓発	在宅医療普及啓発パンフ作成・活用、市広報誌の活用、市民 公開講座、生涯学習まちづくり出前講座
ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携	釜石・大槌地域医療連携推進協議会 (保健所所管)

チームかまいしの連携コーディネート手法 階層別連携コーディネート

イメージ図



③ 地域全体のコンセンサス形成の場

チームかまいしの連携コーディネート手法

◆ **一次連携**（連携拠点と一職種による連携） ※連携の基盤

課題の抽出と解決策の検討・実践

職能団体ごとに課題を抽出・分類・フィードバックすることで
職種内の気づきと課題の共有を促進

⇒団体自らが解決策を検討 例:在宅医療への温度差解消のためのセミナー

⇒連携拠点が職種内課題解決のための取組みを支援 ⇒連携強化

◆ **二次連携**（連携拠点が仲介する複数職種の連携）

一次連携のニーズをマッチングすることで連携構築を支援

例:医科歯科同行訪問研修、多職種合同研修会等

⇒反省会での課題の抽出と解決策の検討・更なる実践へ

◆ **三次連携** 地域全体のコンセンサス形成の場

《三次連携》 多職種が一同に会する機会

- ◆ 釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会
- ◆ 釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会



釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会の様子60～90人が参加

多職種連携の第一歩
顔の見える関係
づくり
連携に関する
コンセンサス
形成の場

【課題】
課題解決のための
現場レベルの連携
プロジェクトが進まない



各職種における課題の層構造 ～何故、現場レベルの連携が進まないのか～

一次連携で抽出された課題

職種Aの課題



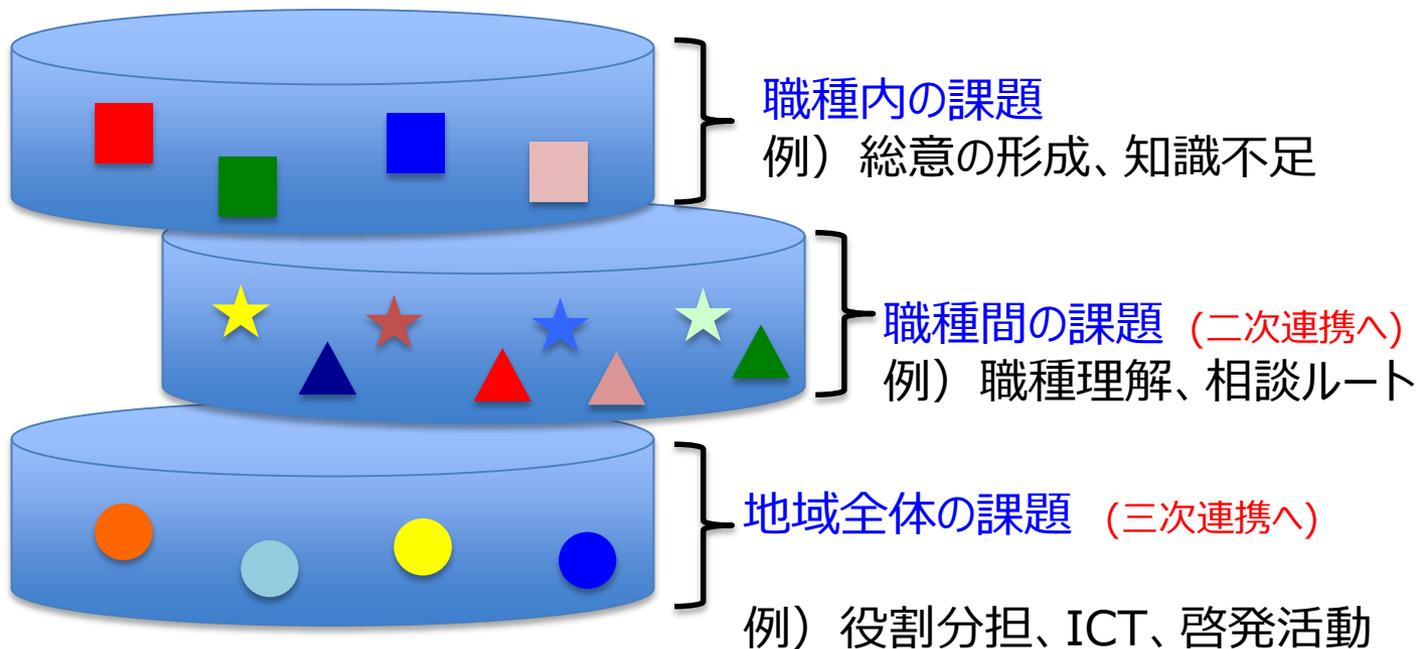
職種Bの課題



職種Cの課題



職種Dの課題



- 層の異なる課題を同一の場で解決することは困難
- 課題の分類と課題内容に応じた場・手法の選択

《一次連携》職能団体との打ち合わせ会

～連携の土壌づくり&タネまき～

歯科医師会と



栄養士会と



病院連携室と



ケアマネ協議会と



リハ士会と



「釜石リハ士会」の設立を支援

訪看ステーションと



一次連携のポイント

～連携の土壌づくり&タネまき～

➤ 会議ではない

- 雑談も交えつつ、ざっくばらんに職種特有の事情が話せるように何度でも
- これまで諦めていた思い(課題)を掘り起こす

➤ 職能団体という単位にこだわりあり

- 連携に熱心な事業者・個人単位では、連携が広がらない。公平でない。
- 出席者は情報（課題・解決策案）を団体にフィードバック
- 一職種に絞ることで、他職種の目を憚らず発言しやすい

一次連携の効果

～連携の土壌づくり&タネまき～

➤ 職能団体自らが課題に気が付く

→課題の多くは自らの職種、団体、職場にあることが判明

➤ 必然的に職能団体自らが解決策を検討・実施へ

→研修会開催など、チームかまいしが支援

➤ 連携拠点にとっては、連携のキーパーソン発掘の場

複数職種間の課題・ニーズは
チームかまいしのコーディネートにより《二次連携》へ

職能団体主催研修への支援・協力

【平成25年度】

- ・チームかまいし医科歯科連携推進セミナー
- ・釜石リハ士会主催多職種対象研修会
- ・釜石薬剤師会主催多職種研修会
- ・釜石三師会主催学術講演会



【平成26年度】※チームかまいし支援事業として実施

- ・釜石医師会学術講演会
- ・釜石広域介護支援専門員連絡協議会主催研修会
- ・釜石薬剤師会主催多職種研修会



チームかまいしによる連携支援事業

薬剤師会主催多職種連携研修会

日時：平成27年3月5日（木）18時45分

参加者：87名（薬剤師24、他職種63）

講演＆ケーススタディ

「在宅患者さんを通しての多職種コミュニケーション
～服薬支援を通しての多職種コミュニケーション～」

講師：井手口直子氏

（帝京平成大学薬学部教授）



◆ニーズのマッチング◆
薬科「薬剤師の職能を他職種に理解
してもらいたい」
拠点「多職種間のコミュニケーション
のスキルアップを図りたい」



チームかまいしによる連携支援事業



◆釜石医師会学術講演会

日時:平成27年6月29日(月)18時30分
参加者:136名

講演:「優しさを伝えるケア技術
～ユマニチュード～」

講師:イブ・ジネスト氏(ジネストマレスコッティ研究所所長)
通訳兼講師:本田美和子氏

(国立病院機構東京医療センター総合内科医長)

◆釜石三師会学術講演会

日時:平成27年8月7日(金)18時30分
参加者:87名

講演:「在宅医師から見た地域包括ケアシステムの現状～多職種の専門性を活用した在宅医療の実践～」

講師:狭間研至氏 (ファルメディコ(株)代表取締役社長、一般社団法人日本在宅薬学会理事長)



一次連携で抽出された
職種をまたぐ課題のほとんど全てが

お互いの理解不足



相互理解を支援するために
2次連携をコーディネート

《二次連携》 連携拠点が仲介する複数職種による連携 ～課題内容に応じた様々な連携手法～

【実績】

平成25～27年度医科歯科同行訪問研修 計9回

平成25～27年度医科薬科同行訪問研修 計11回

平成25年度ケアマネジャー & 薬剤師合同研修会

平成26年度滋賀県高島市視察対応

// 病院連携室 & ケアマネジャー意見交換会

// 在宅医療先進地域情報フェスタ2014

平成27年度日本在宅薬学会でのポスター発表

// 浦添市医師会等視察対応

// 歯科医師 & 栄養士意見交換会



同行訪問



視察対応



グループワーク



意見交換会



共同発表

一次連携で抽出された課題リスト

ケアマネ

第1回ケアマネ連携に関する打ち合わせ会議 (1次連携)

病院

第1回連携室連携(県産)に関する打ち合わせ会議 (1次連携)

2014/8/8

退院調整以外の業務(医療ソ
ニール目、各のほとん、医療費

No	職種	発言者	備考
1	ケアマネ	齋藤	がん相談 院内
2	医師	寺田	ケアマネ
3	医師	寺田	てほし ケアマネ
4	ケアマネ	岩崎	戻るん 院内
5	ケアマネ	岩崎	院は分 ケアマネ
6	ケアマネ	岩崎	ケアマネ
7	医師	寺田	ケアマネ
8	医師	寺田	イスはす ケアマネ
9	医師	寺田	希望はす ケアマネ
10	医師	寺田	
11	医師	寺田	ケアマネ
12	ケアマネ	澤田	と家族に いる。ケア ケアマネ
13	医師	寺田	まり効 ケアマネ
14	ケアマネ	澤田	ケアマネ
15	ケアマネ	澤田	護師等)
16	医師	寺田	る。 慢性期病院
17	医師	寺田	ンドが空 5。 慢性期病院
18	医師	寺田	とりあえ 診療所
19	医師	寺田	診療所、歯科
20	ケアマネ	松田	薬局も 薬科
21	ケアマネ	松田	ケアマネ
22	医師	寺田	組織の強化
22	MSW	病棟看護師の教育をどうするか	院内

一次連携のいいところは他の
職種の目を気にせずに思い
切り言いたいことが言えること